

令和7年度第2回 茅ヶ崎市立小和田公民館運営審議会会議録

議題	1 令和7年度小和田公民館主催事業の実施状況について 2 令和7年度茅ヶ崎市立小和田公民館運営審議会に対する諮問について 3 その他
日時	令和7年11月7日(金)13時30分～15時30分
場所	小和田公民館 実習室
出席者氏名 (敬称略)	会長 新井 昭子 委員 青木 千賀子 今村 太麻美 高田 陽子 谷田貝 円 高野 敦 (欠席) 副会長 水島 将隆 事務局 担当課長兼館長 浅井 志子、副主査 青柳 なつ紀
会議資料	1 令和7年度第2回小和田公民館運営審議会会議次第 2 令和7年度小和田公民館主催事業計画 3 令和7年度小和田公民館運営審議会答申(案)
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0人

(浅井館長)

これより令和7年度第2回小和田公民館運営審議会を開催します。

初めに資料の確認をさせていただきます。

令和7年度第2回小和田公民館運営審議会会議次第、資料1 令和7年度小和田公民館主催事業計画、資料2 令和7年度小和田公民館運営審議会答申(案)、以上不足等ございませんでしょうか。

ありがとうございます。

本日は水島委員が都合により欠席でございますが、茅ヶ崎市公民館条例施行規則第13条第2項の開催要件(半数以上の委員のご出席)を現在いただいておりますので、会議は成立していることをご報告いたします。

なお本日現在のところ傍聴の申し出はございません。

議事進行につきましては、茅ヶ崎市立公民館条例施行規則第13条第1項に会議は会長が招集し議長となるとの規定がございますので、これより新井会長に議事進行をお願いいたします。

(新井会長)

はい。それでは令和7年度第2回小和田公民館運営審議会を始めます。

次第に従いまして議事を進めて参ります。

なお、本会議は公開となっており、会議終了後会議の概要を2日以内、会議録を45日以内に公表するという事になっています。

議事録の確認ですが、何れでも会長に一任していただければよろしいでしょうか。

(一同)

はい。

(新井会長)

では高田委員、よろしくお願いします。

(高田委員)

はい。

(新井会長)

それではまず議題 1 令和 7 年度小和田公民館主催事業の実施状況においてを議題といたします。
事務局より説明をお願いします。

(事務局)

はい。

それでは事務局より説明させていただきます。また今回もスライドを用意しましたので、皆さま壁のスライドを見ながら聞いていただければと思います。

今回 7 月から主に 9 月の事業でしたので、夏休みということもあって、子どもの事業が多めになっております。

まず子ども茶道教室ですね。前回浴衣の事業についてご紹介しましたが、やはり日本の伝統文化を学ぶ事業として今回も実施しております。全 5 回を通してお茶のお手前とお茶席での簡単なお作法を学ぶという講座で、最終日には和菓子職人さんに来ていただいて、和菓子づくり体験と成果発表のお茶会を実施しました。

(浅井館長)

1 の子ども事業の 12 行目になります。

(事務局)

子どもたちからも人の前でお茶をたててとても緊張したけれど、美味しくさせることができてうれしかった、ですとか、そもそも最近の子どもはやっぱり椅子に慣れているので、正座をするということ自体がなかなか慣れなくて大変だった、きつかったっていうようなことを声も聞きました。

文化庁がこちら支援してくださっている講師の方を招いての事業でした。

続きまして、ちりめんモンスターを探せ。こちら 1 番の 6 行目の事業となっております。

青少年会館との連携事業を今年度いくつか行っているんですけれども、その中の 1 つで、青少年会館の職員を講師として出前講座で小和田公民館で実施をしたものになります。

チリメンジャコ、スーパーでも売っていると思うんですけれども、その中に小さなエビとかカニとかが入っていることがあると思うんですけれども、その種類が本当にたくさんあるんですけれども、自分たちでその中に入ってる珍しい小さな生き物を虫眼鏡で見つけ出して、ピンセットで種類別に分類をして樹脂標本を作成するという事業でした。海の生き物とその環境について学ぶとともに、SDGs の観点からも海に関心を持ってもらうことができた事業です。地域を跨いで、青少年会館の普段のユーザーが小和田公民館にも足を運んでもらったり、逆に小和田公民館の普段の利用者さんが青少年会館でもこんな事業をやっているんだっていうことを知ってもらう。相互交流にもなったと思います。

講師から当日終わらない子どもが多いと聞いていたんですけれども、本当にみんな夢中でかつ丁寧に仕分けの作業をしていたので、終了時間に終えた子どもは本当に少なかったんですけれども、おうちに持ち帰ってからもまだまだやりたいっていうすごく学びの意欲に繋がる事業でした。

続きまして、知ろう学ぼう認知症、小学生のための夏休み特別講座です。一番の 15 行目です。

こちらは地域包括支援センターさざなみさんと、松浪地区社会福祉協議会さんとの共催事業でした。午前中は認知症って何だろう、ということ座学で学んで、インスタンスシニア体験も行い、お昼はこ

の後も紹介しますが、こわだ子どもキッチンクラブの方に揚げパンとかを作っていただいて、ボランティアさんと一緒にご飯を食べて、午後は近隣のデイサービス施設に、子どもたちが見学に行くというような事業でした。

何で申し込んだんだろうっていうところがやっぱり一番職員たちも気になっていて、揚げパン目的だったんじゃないかなと思ってたんですけど、それも美味しかったっていう答えはあったんですが、結構近所のお年寄りを見て、自分の名前を何回言っても忘れちゃうお年寄りがいて何でだろうって心配になったからとか、自分のおばあちゃんやお父さんお母さんが高齢になったときに助けたいから、とかっていった本当に涙が出るような、すごくピュアな思いで参加してくれる子どもたちが多くて、やっぱり高齢者やその認知症についての理解を深める必要な機会を得ることができたかと思います。

続きまして、投資体験ゲーム世界の国に投資しようⅠの14行目の事業です。

こちら初めて開催した事業だったんですけど、講師の方、小和田公民館とそれから名古屋に実際にそのシミュレーションゲームをリアルタイムでいじるような方と遠距離で繋ぎながら行う、また子どもの小学校のタブレットを借りてICTにも特化した事業を実施しました。

まず最初にお金に関する簡単な質問で性格診断みたいなことを行って自分はバランスタイプとかチャレンジタイプみたいなものとかで、心理ゲームのようなことを行った上で、主要6カ国のGDPとかを示して、国ごとの特徴とかニュースとかデータを通じて世界情勢を学び、それを踏まえた上で、それぞれみんな100万円の資産を原資にして自由に投資していく、ということをやりました。

貯金してもいいし、どこの国に幾ら分ってというのは分配してもいいよっていうところで、それぞれ毎回こんな情勢が変わったよとか、過去10年間の動きを見て、やっぱりコロナがあったから、経済的にどこの国も落ち込んだねとか、ワクチンを作った国が発展したねとか、そういった本当に事実も実際にあったことを踏まえて行動していたらこう変わったっていうのを皆さん体験してもらうっていうような事業だったんですけど、何でその配分にしたのっていうのも、講師の方が聞いてくれて、中国はいろいろな人数も多いから、何か新しいことやる、ちょっと前まで発展していたから、もっともっと伸びると思ったとか、自分たちで小学生ながら考えて意見を述べていたのもすごく勉強熱心な様子も見られてよかったなと思いましたし、世界情勢ってなかなか子どもも日常の中で学ぶ機会が小学生のうちにはあまりないかなというところを、本当にゲーム感覚で楽しんで学べるというとてもいい機会になりましたので、今後もこのような講座を視点を変えながら継続していきたいなと思っております。

続きまして、小中学生生け花教室(夏)です。こちらは生け花講座としてⅠの4行目に記載がございます。

生け花教室は、年間を通じて春夏秋冬のお花を行けるという講座をやっている中で、今回も年間の枠とは別に随時班として夏の花を1日だけ生けてみようという募集を行いました。

皆さん季節の花を使って、本当に自由なフリースタイルで生けていて、子どもたちも自分のお庭の花を生けてみたいとか、おうちが明るくなるからママにプレゼントしたいとかっていった声もたくさん、聞こえた事業でした。

続いて、親子で楽しむ工作教室、こちらⅠの11行目になっています。

夏休みに毎年神奈川土建組合さんの協力を得て開催しています。

親子で地域の職人さんの指導のもと協力していろんなものを作るんですが、今年はモザイクタイルか収納ラックか、というのを選んでもらいました。

初めに、まず危険なんですけれど、カッターを使って工作に使う鉛筆を削ってみようという体験。自分たちが子どもの頃って結構やっていたと思うのですが、やっぱり今の子どもたちにはなかなかない経験だったみたいで、そこからまずドキドキしながら楽しんでもらったのと、親子2組から3組を1人の職人さんが担当して道具の扱い方を教えて、親子で作品を作っていく。鋸もやっぱり今、家庭で持つ

ていない家もたくさんあるので、お母さんお父さん自身もちょっと学生時代ぶりに触りましたとか DIY とかしてみたいと思っていたんですけど、ちょっと自分じゃできないので体験させてみたかったなんていうお声をいただいて、本当にトンカチで釘を打ったりとか、色タイルを割って貼り合わせるとか、親子で分担しながら作品と一緒に作っていくのを楽しんでもらえた、というところと、実際にできた作品を夏休みの宿題として提出していただいたお子さんもいたという風に伺っております。

続きまして、おもしろいっぱい遊び空間です。

こちら今年も年 2 回なんですけれども、1 回目は 9 月に実施しました。地域の方々と連携して、未来を担う子どもたちにとっていい学びや体験の場を提供する目的で実施している事業です。松浪小学校区青少年育成推進協議会さんに工作の指導をしていただいて、今年はピロピロとアロマを作る指導していただきました。あとは浜須賀中学校の卓球部の生徒による卓球の体験や、海山会という将棋サークルさんによる将棋の指導。あと催し物は毎回何にしようかって考えているんですけど、今回は環境政策課によるエコクイズを企画し、クイズラリーを行いました。

小学生の遊び場の提供とともに中学生のボランティアの体験だったりとか、皆さんの交流の場として、これからも実施していく予定のある事業です。

続きまして、子どもの広場 1 の 2 行目です。

こちらサークルの自主的な児童文化活動の場として提供しておりまして、また見ることを聞くことつくることっていう経験を通して子どもの五感や情操を高めることを目的に実施しています。

今回はうちの松浪人形劇サークルさんに講師となっていただいて、楽しい人形劇とそれから最後に紙コップ人形の工作を行いました。

続きまして、家庭教育支援関連事業に移ります。

2 の 2、プロカメラマンに学ぶカメラ教室です。こちらは小さいお子様の一瞬一瞬思い出に残したいというお父さんお母さんたちも多く、スマートフォンやこだわりのカメラを持っている方たちたくさんいるんですけれども、なかなか教わる機会もないというところで、この撮影の仕方を教わることで、上手に子どものたくさん動く様子の写真も上手に取れるようになったり、親子の絆を深めたり、思い出づくりに繋げる、あとは同じ月齢の子どもを持つ親同士の交流の場とすることを目的にした事業です。

撮影場所で 1 組ずつ撮影していくということで講師の方がすごくかわいらしい撮影ブースを手づくりで左側の写真ですね。即席で作ってもらったんですけれども、100円ショップとかで揃えたそうで、すごくかわいい写真をたくさん取ってもらいました。他の親子と撮ったデータをお互いに見ていいところを話し合うとかっていう風に、こちらからも積極的に交流してもらうような工夫をしました。

アンケートの結果、他の公民館の講座にも参加してみたいって全員が仰ってくださって、実際に翌週のちびっこ広場にも申し込んで参加してくださった親子もいました。

続きまして、ちびっこ広場夏祭りです。2 番の 1 行目です。

こちらほぼ毎月実施している子育て中の保護者同士の交流や就学前の子どもたちが人の場に集まる練習として、開催しています。

9 月は例年よりちょっと遅い夏祭りということで、ゲーム感覚のものとしての的当て、輪投げ、宝探しゲームですとか、オリジナルうちわづくりの工作を行いました。

こちら Instagram を活用して募集を行ったところ、総勢子どもが 40 人ものお申し込みがありましたので、今後も未就学児向けの若い親御さん向けへの周知方法には SNS を活用していきたいと考えています。

続きましてシニア事業です。3 の 4 行目、初心者のためのスマホ教室です。

こちらはスマートフォンなどの技術の進化で便利なことも増えている一方で操作に不慣れな高齢者にとってサービスにアクセスできないとか、遠方に住む家族と SNS での交流がうまくいかないなど、

デジタルデバイドの解消が今社会的に課題となっているということで開催している事業です。

午前はスマホを使ってみようとか画面の見方を知ろうという基本的な講座。午後は LINE 準備編・LINE 応用編ということで、LINE で友達登録をする方法ですとか、写真を送ってみる、というところを具体的に学んでいただきました。

どちらかというと午後の方が申し込みが多くて、個人的には数年前と比較すると、基本編は結構皆様もう身に着けてくださってって、さらにそのステップアップとして LINE をうまく使いたいとか、今小和田公民館の事業も Web での申し込みにもう特化させていただいているので、そういった講座の申し込み、インターネットでの何かの応募っていうところも自分たちでやってみたい、というところで、ちょっと応用編をメインにした事業の方が、今後は需要があるのかもしれないと担当者と話していたところでした。

続きまして、歌の広場。3 の 1 行目です。

こちらは童謡や唱歌、日本の歌百選などから心に残る歌をジーバスさんの生演奏と一緒に歌い紡いでいく事業となっていて、ジーバスさんが自分たちで演奏できる曲が全部で 300 曲あるので、そのリストの中から参加者が申し込みもなしで来ていただいて、リクエストをしてその場で演奏してもらう。実際の歌詞は大きなスライドで映してみんなで唱和するっていう事業ですごく大人気な企画です。大きな声でみんなで歌える場がやっぱり、すごく減っているっていうところと、参加されてる方の平均年齢が 80 代だそうなんですよね。なので 80 代の方にもいい。ちょっと私は初めて聞いたなっていう楽曲もすごく多いんですけども、すごいノリノリで皆さん歌われていて、やっぱり大きな声で歌うっていうのが喉の筋肉を鍛えることに繋がって、誤嚥性の肺炎の予防になるよとか、あとはストレスの解消になったり、懐かしい曲をみんなで歌うことで、友人同士との思い出を思い返したり脳を刺激したりということと、心身の状態を健康にするという意味でもすごくいい事業だなと感じております。

(高田委員)

80 代には見えないですよ。

(事務局)

皆さんは若々しいですよ。逆にサザンとかはちょっとわからないんですよ。

なので本当に昔ながらの曲、今多分紅白とかでも歌われないような、ただその方たちの世代にはささる歌を皆さん予習もなしに歌われているからすごいなと。やっぱり小さい頃から耳にしていた曲って覚えていて、歌詞を見なくても結構暗唱をされている方も多くいらっしゃいました。

続きまして、地域課題等解決事業の夏野菜づくりです。5 の 5 行目です。

こちら人気講座で、手塩会さんを講師として、公民館の畑の野菜の収穫体験とその野菜の素材を生かした調理実習を行う事業です。

収穫から調理実食までを一貫して行って、栄養バランスの偏りのない食事づくりについて、座学も行っていただいたりですとか、普段自分でつくらない新たなメニューにチャレンジする機会の提供になって、男性の方も参加者いらっしゃったんですけども、参加者がつくれる料理のバリエーションを増やしてもらったり、収穫した野菜を使って、実はこんなところでも食べられるんだっていう可食の部分を食べるっていうこともあるので、食ロスですとかについて学んで、行動するきっかけづくりを促すような事業となっております。

続きまして、平和事業公民館青少年会館連携の集い、学び繋がる折り鶴事業です。こちらが 5 の 21 行目です。

今年が戦後 80 年を迎える年になっていまして、戦争を知らない世代が増えているというところから、多様性社会推進課という本庁の部局と共催をして、私たちも何ができるかということで、千羽鶴を子どもたちに、折り鶴として作ってもらったりですとか、平和の願いを込めた短冊を作ってもらえるような事

業を実施しました。

それと同時に折鶴のポスターの横に広島市の平和記念資料館等で実施している内容や資料などがわかるチラシを用意して学習機会の提供を行いました。

ちょうど8月末ぐらいに、この後出てくるSDGsサポート隊の子どもたちが折鶴を1000羽につないでもらったので、来年の春頃これを広島の方に持っていき、夏に実際に禎子さんの像のところに運ばれるという風に聞いております。

続きまして、夏休み小和田子どもキッチン5の18番です。

これは前回の審議会の時にもどんな事業かというのをご紹介させていただきまして、全14回、この夏休みに皆さん地域の団体さんやサークルさんの皆さんのお力をお借りして、無事成功させることができた事業となっています。

夏休みの子どもの居場所づくりっていうところを大きなテーマにして行っていました。

写真をたくさん用意したので見ていただけたらと思います。

講師の方も総勢で言うと60人以上の方に関わっていただきました。

それ以外にも畑の野菜を育ててくださったボランティアの方もいらっしゃいます。

こんな風に子どもが一生懸命うどんを踏みつけて、コシが出るように作っているようなところですか、こねたり切ったり、色々初めての体験も多くありました。

本当にいろんなメニュー皆さん楽しいおいしいメニューを考えてくださって、子どもたちがまた明日も来たいなって、もっともっと申し込めばよかったなんていう意見もたくさん教えてもらいました。

色とりどりで本当メニューもおいしい。作り方も例えばお好み井とかおにぎらずも、自分の想像を超えたオットットをドンブリに入れてみたとかおにぎらずもラップを引いて、4つに折りたたんで作るんだとかっていう作り方も子どもたちがすごく楽しんで参加してもらえて、おうちで作ったよっていう声もたくさん聞かれました。

青推協さん講師の時には工作も合わせて実施してくださって、子どもたちからもラッキーだった今日ばっていうのも聞かれました。

各団体さんいろんな工夫をされていて、子どもたちがやっぱり先の見通しが立つように作り方を図解でホワイトボードに貼って説明をしてくれたり、あるいは別室で栄養の説明、赤のエネルギーは何だろう、黄色エネルギーって何だろう、今日食べる使う野菜ってどれだと思ふうに、それも講師の方の手づくりで、今ちょっと右側で、黄色い旗みたいなのを子どもたちが持っているのですが、黄色、緑の方を手旗作って持ってきてくれて、楽しく参加してもらいました。

実際に事業が終わった後に保護者の方にアンケートをとったところ、もう本当に多くの方から子どもの居場所として、大変保護者の負担が軽減される事業になりましたっていうお声をいただきましたし、偏食があったり、苦手なものが多い子どもで心配して行き渋らないかって思っていたけれども、毎日楽しく参加をしてもらえて、自分で調理したから友達になった子と食べようってチャレンジして食べたら美味しかったと話していたとか、あとは実際にスーパーに買い物から行ってみて、調理も当日は分担で自分はこれを切る担当とかだったけれど、おうちでは1から自分で作って見たらすごく大変でお母さんたちが毎日それをやっているってすごいねって言ってもらえたとか、声も聞かれて、お母さんお父さんたちにも、やっぱり子どもが生きる力っていうのは、食べることもそうですけど、やっぱりそういう食事を作るためには、まず野菜を育ててくれる人がいて、それを購入して、実際に調理してっていう工程がたくさん入っているということを地域の方に教えてもらえたっていうところで、普段関わりが少ない地域の大人たちと関わる機会を設けてもらったこと自体がありがたかったですっていう感謝の言葉も多数いただくことができました。

中には家庭だけでなく近所の方にも振る舞ったなんていうご意見をいただいたりして、すごく子ど

もたちにとっても自信に繋がったんだなというところです。

続きまして、博物館連携事業のナイトミュージアム 4 の 1 です。

こちら 3 回目になりますが、博物館にマイクロバスで実際に松浪小学校の生徒さんたちを連れて行って、小学校の支給タブレットを使って、毎年いろんな講座を考えているんですけども、今年は博物館の展示物の特徴をよく観察してそれについて話し合っ、タブレットにまとめてもらおうということをも博物館の学芸員さんと企画しました。

箱の中身は何だろうっていうところで、左側の写真にあるように穴の空いたボックスに子どもたち一人一人手を入れて、どんな感覚、というトゲトゲしてるツルツルしてる重たいよとか、そういった特徴をまず目でみんな入って、ちょっと他の感覚、五感を研ぎ澄まさせてもらうということをやっ、資料の特徴に気が付くように誘導して、実際に展示室では懐中電灯で、暗い中照らししながら見学して、ちょっとわくわく特別感を感じながら、どんなものだろうっていうのを考えてもらう。同じ班の子どもたち同士で、いやこんな特徴あるよねとか、こんなサイズじゃないのなんて話をしながら、実際にタブレットで写真を撮って、右側の深鉢は不思議がいっぱいっていうのはそのうちの 1 人の子が作ってくれた作品になっているんですけども自分で撮った写真と、どんな特徴があったっていうのを、学芸員さんのお話を聞いたり、本を鑑とかも博物館と置いてあるので、それで調べたことなどをまとめてもらった事業になります。タブレットも Google クラブルームという Google スライドという機能を使って提出をもらったもので、経済的に例えば自宅でスマートフォンやタブレットパソコンなどを持っていない子どもたちにも、こういった機会でも学校以外でもタブレットに触れていただく機会になったり、松浪小学校は生徒数が多すぎて博物館見学にどうやら行けないそうなので、博物館により興味を持ってもらって、自分たちの学んだものを家族や友達に紹介してもらうきっかけにもなったらいいなということで実施しました。

実際に申し込みの受け付けをした当日に調べたら 200 アクセスあったみたいで、即日もう本当に一分もかかからずに満席になってしまったので、来年度以降もぜひ継続していきたいなと思っています。子どもたちも昔の暮らしとかいろんな歴史を知ることができてよかったとか、ハクビシンの家とか蛇の抜け殻をさわったり、ちょっと特別な時間を設けたので、本当に茅ヶ崎にこんな生き物がいるって知れてよかったとか、歴史だけでなく、茅ヶ崎の風土とか生き物についても学んでもらうことができました。続きまして、学習成果活用学習情報提供事業です。

サークル見学のご案内ということで、新しく今年度お試してやってみているものになります。

サークルさんもメンバーが高齢化していて、なかなか人数が減ってしまっていてどうしたらいいんだろというご相談いただいたことがきっかけで、6 月にまず見学を実施したら、何組か見学もあって参加に至ったということもありましたので、10 月にも実施をしているところです。

今集計中なんですけれども、やはり今回も見学者が何人かいらっやっ、興味を持ってくださっているっていう声をいただいておりますので、また今年度中どこかで実施する機会がありましたら皆さんぜひご参加ください。

(浅井館長)

リストにはちょっと間に合っていないくて、急に思いついて始めたもので追加ができておらずすみません。

(事務局)

最後になりますが、次世代ネットワーク事業 SDGs サポート隊 I の 1 行目です。

こちらについては毎月活動していますが直近の活動のご紹介です。

海洋ごみについて市役所の資源循環課の職員にレクチャーをもらって、海洋ごみを減らすためには何ができるかと言うところで、海洋ごみの発生の流れやポイ捨てごみの実態、市のリサイクルの状況などをこの SDGs サポート隊の隊員たちにお伝えをして、みんなの意見や対策を投げかけながら

学んでいただくものになりました。

実際に左側が目指せりサイクルマスターという海洋ごみ学習カードゲームなんですけれどもポケモンカードみたいな形で卓上で行えるゲームなんですけれども、どんなものがリサイクルできるかというのも学びながら遊べるゲームで、大人は結構理解するのが難しかったんですけれども、子どもの方が1回ルールを聞いただけでマスターしていった、私たちはもっと勉強しなきゃいけないかなと思ったところなんです。

すごく人気もあって、資源循環課さんの方から、このカードを6セット無償でいただくことができたので、公民館まつりでもちょっと試してやってみたいと思っておりますので、ご興味ございましたら是非見学してみてください。

右側の写真は、同日に行ったサツマイモの芋掘りです。

これも苗から育てたものを実際に掘り起こしてもらった事業になっていて、公民館の畑をさざなみさんや包括支援センターのボランティアさんたちがとても大切に丁寧にお世話をしてくれていて、どんどん今畑拡張中なんです。

今は同じサツマイモなどが埋まっていたところに、白菜とキャベツとか大根とかたくさん植わっています。この夏ゴーヤを私たちが育てていたところには、菜の花の種を植えてくれることになっているので、公民館まつりのときに綺麗な花を咲かせてくれたらいいなと思っております。

簡単ですが、主催事業の報告は以上です。

(新井会長)

ただいま次事務局の説明が終わりました。

この件に関してご質問などございますでしょうか。

質問がないようでしたら各委員よりご意見をいただきたいと思います。

お席の順に高田委員の方からお願いしてもよろしいでしょうか。

(高田委員)

例えば4月見て行くと全部通して本当に毎月のようにいろんな事業が行われていて、これはあくまでも小和田公民館がやってることであって、その他にもいろんなお部屋は皆さんが借りたりなんかして、もうかなりお部屋はいっぱいいっぱいで、盛況でいいと思います。

(新井会長)

ありがとうございます。

青木委員をお願いします。

(青木委員)

私も今発表を聞いていてとても楽しそうな事業がいっぱいあっていいなと思いました。

子どもたち中心にやる事業がいっぱいあるのと、それからシニアのスマホですけど、スマホも意外と行きつ戻りつで、私なんかもそうなんですけどいつも子どもに叱られるぐらい聞いたのにもうまた忘れてるとか言われてやってます。

～体調不良者が出たため一時中断～

私もそんなことでスマホは応用編があったら参加したいなと思います。

(新井会長)

はい。ありがとうございます。

では谷田貝委員をお願いします。

(谷田貝委員)

私は幼稚園の方で働いていて、家が松浪の方なので、これだけの事業をされていることでずっと正直知らなかった。例えば子ども事業にしろ家庭教育支援関連事業にしろ。

本当は保護者にもっともっと周知させるべきだったのかなと思って、じゃあどこでこの情報、私は居住してて知るかっていうと、自治会の回覧版でしかないんですね。どうにかしてこの発信がもっとできるというだろうなって今 SNS を使われてるってことだったんでね。当園も SNS を使っていてインスタグラムの発信してるんで、そういう事業者といっぱい相互フォローをしていった方がいいだろうなって、これだけの数を見たときにちょっとそう思いました、もったいないなと。定員数の割には実績の数が少ない事業も多いので、そういった意味ではいろんな事業者と繋がっていけば、発信力として増えてくるのかなっていうのは生まれたので、いやいやまだまだ私もこうやって情報をキャッチするのが弱いなと思いました。はい。楽しそうです。

（新井会長）

では高野委員、お願いします。

（高野委員）

はい。直近のところで言うと夏休みにやった子どもキッチンの報告を改めてこの前今度発表に向けて山崎さんと写真の確認とかしながらこんなのでしたっていう話を改めて聞いて、どの日を選ぶかっていうところから何か子どもは結構楽しんでたみたいで、ネーミング大事だねっていう話があったとか、あと、自分はそう思わなかったんだけど、うどんか何かのミルク風味みたいな、焼きそばだ。あんかけ焼きそばミルク風味が自分的には別に全然予想にはしなかったんだけど、何か人気があまりなかったとか、そこで何か、子ども寄りにしていこうっていう反省が出たみたいなね。もうちょっと子どもの好きな味はこういうのかなのかもしれないねっていうような反省が出されてたということで、どうなんでしょうね。昔なにかわかんないけど何かそういうものの味の継承っていうのも大事ななと思いつつ、やっぱり今どきのって言っているのかわからないけど、今のね、子どもの味覚に合わせて子どもが喜んで参加できるようなものと、どこに焦点当てるばいいのかっていうのの難しさみたいのもちょっと感じたところですよ。あとは改めて出てきていたけれど、子どもキッチンやるにあたって、もう大盛況だったんだけど、一番来て欲しい子たちが本当に来てたかどうかっていうところのね、やっぱり周知の仕方はやっぱりまだ今後ももう最初から出た課題ですけどね。今後もやっぱり課題ですよっていう話をさせていただいたところです。

あとまた改めて本当にたくさんある中で、例えばチリメンモンスターって自分は最初図書室に絵本っていうか写真の本があってそれで見て結構興味持ったところだったんですよ。

なので、例えばこういう事業と学校との連携ができるとしたら、例えば学校とどっちが先かわからないけど、図書室でこんなを見て、こんなのあるんだって公民館のこういうのを見て、実物探せるんだっていう繋がりもいいたろうし、公民館なんかこんなのをやったんだけどって行って図書室で探して、こんな本あった、みたいなね、そういう連携ができるといういろいろいいのかなと思いました。

この投資体験ゲームとかもね、もう 5 年生 6 年生の社会科とかだと貿易ゲームとかやっぱこれに似たようなものを実践してる先生もいらして、多分そういう面白さなんじゃないかなって。遊びながらそういう経済的な部分の学習みたいなものを、逆にこれちょっと授業でやってみたいなって思っちゃったぐらい、本当にもうどっちが先かわかんないけど何かね。

そういう連携をすると例えば公民館でこういうのをやって、子どもが何かこういうの面白いよみたいな話から授業に生かせるんでもいいし、学校でこういうのやって、ちょっとずつこういうのやって面白かったみたいなのを言って、今度はその保護者の方がじゃあ公民館で一緒に行ってやってみようみたいな。そういういろんな形の連携ができるといいのかなと思いました。

（新井会長）

ありがとうございます。

私もまず思ったのは 8 月 7 月忙しかったですね、公民館。本当にこれ、数えたら 12、もっと、ってこと

は毎日何かやられてたぐらいの、本当に驚きました。正直驚きました。自分が参加したのも2つあったので、もうそれだけで手一杯、それだけ二個やるのも結構大変だったのに毎日やられてるっていうのは、もう本当にすばらしいなと思いました。

今先生方がおっしゃったように確かにこの周知ですね、もったいないなっていうのはあるのと、ただどうなんでしょうか。

公民館の掲示であったり、SNS そうなんですけれども、いちいちそのチラシを作って回覧をするっていうのはなかなか難しいのでしょうかね。

自治会回覧とか、どうなんですかねお手間的にもいろんなこともあると思うんです、タイミングもあると思うんですけれども、この SNS もあんまり私、自分で見てるつもりでもあんまり引がかかってこなかったっていうのもありまして、若い方々にはその SNS すごく有効だと思うんですけれども、確かに保護者の方を通じてっていうか、学校、例えばそれっぽいものが学校、幼稚園その他の方にチラシをちょっとガンガン出すとか、それから掲示をさせていただくとか、可能であれば、できたらもっともっともしかしたら集まるのかなっていうのは思いました。

それから、お年寄りの方のこの歌の広場ですか、大変楽しそうだから、シニアの方はそういうのとかスマホとかその趣味のことでも集まれる、そして子どもたちは子どもたちで来られる、やっぱりその親世代ですかね。

だからちびっこ広場とかプロのカメラに学ぶとかそういうので、ちっちゃい赤ちゃんのお母さんはそこで入れるかもしれないけれどもやっぱり小学生ぐらいの保護者の方に興味を持ってもらう、公民館の活動の興味を持ってもらうっていうことが、どうしたらいいのかまだわかんないんですけれども、そういうので、やっぱりここ人口っていうか、親の人口も多いし、人も多いですけど、親も多いのももっともこここのこういう活動をしてもらいたいなという風に思ったのが一番正直なところであります。

それから子どもキッチンではもう個人的な声、感想にはなっちゃうんですけれども、私たちは最後に近かったのが青推協でやったんですけれども、子どもも慣れていたって本当に救われたところがあるんですけど、何がよかったってね大人が面白いんですあれ。

本当に、もう思わぬことするし、思わぬこと教えなきゃいけないし、想定外ばかりでもう本当に面白くて、大人ばかり楽しんでたんじゃないかなっていう反省はちょっとあったんですけれども、感想でね、皆さん、どれとはわかんないですけども、ご満足いただけてまたっていうお話があったってことはもうこれはもう少し頑張っていくところだなと実感しました

(高田委員)

あの、スマホ教室のときに、市のラインを入れるように勧めていただくと、公民館情報がよく出ますよね。

(浅井館長)

やっています。まず、さしさわりのないところで、公民館の LINE に登録してみようをやって、おすすめして登録してもらって。

(高田委員)

よその公民館でも、あ、ちょっと面白そうなのやってるとかね。

(新井会長)

私、子どものは入れてるんです。

(浅井館長)

どの情報が欲しいかは選べるので。

最近公民館の事業もこれでかなり発信されています。ありがとうございます。

(新井会長)

はい、ではこの議題Ⅰに関してはよろしいでしょうか。

それでは議題 2 令和 7 年度茅ヶ崎市立高良公民館運営審議会に対する諮問について、事務局より説明をお願いいたします。

（事務局）

お手元の答申案につきましては、皆様に議事録及び水島委員意見書から答申に含めるべき部分を抽出していただき、選ばれたご意見を基に作成しました。

本日は今一度議事録と答申案を見ていただき、プラスすべき意見がないかを審議していただきます。意見集約後、第 3 回の審議会開催前に修正した案を再度皆様にご確認いただきまして、第 3 回の審議会では最終確認をしていただきたいと思いますと考えております。

また、文言の修正追加はなくとも、ご意見込めた思いなど皆様ございましたらお話し合いいただければと思います。

追加するまでなくても、この裏にはこういう思いがありましたとかってということも本日の議論の中でお話しいただければ嬉しいです。

ではよろしくをお願いいたします。

（新井会長）

はい。

2 名以上の委員が議事録の中から選んだ意見を主として答申案をまとめていただいたので、その上で再度追加修正があれば今言っていただきたいと思います。

何か、こんなことだったよでもそういうことでもいいので、ご意見をまた今度は青木さんからお願いしてよろしいでしょうか。

（青木委員）

はい、私は読ませていただいて、よくまとまっていいなと思いましたけど。

あと追加で担い手不足っていうのはどこの会でも一緒なんですけれど、本当にどうしたらいいのかっていうのがあって、私たちも参考にさせていただければいいなと思ってます。

あとは事業の中でやっぱりシリーズ化していった方がいい場合がありますよね。

そこでサークルができてっていう感じで生まれてくるのがいいのかな。私も昔ながらの考え方で申し訳ないんですけど、そんなところから取り組めたらいいのかなと思いました。

やっぱり今の時代ね SNS とかそういう IT のあれもあるので、そのところの年寄りギャップがあってちょっとついていけないところがあるんですけど、そのところがうまくいけば、いいのかな。

どういうふうにやって良くなっていくのかわかんないんですけど、リモートっていうのは私たちはできないので。

だから、参加したい人がいても、うまく公民館に来れなくて、今まで行ってたのに来れなくなっちゃったっていう年寄りがいたりするので、そのところを、どうやったらいいのかなって。

言っていることのちょっと言葉が変でちょっと、うまく伝わらないと思うんですけど。

やっぱりお年寄りもお惣菜づくりなんかも、今本当に少なくなっちゃってるんですよ。

前は 30 人も 40 人もいた方が、参加できなくなって足が痛くて、2 階まで上がれないって。コミセンの方はエレベーターがあるから行ってもいいって言う、でもコミセンに近くないと、そこまで歩いて行かないそういうのを聞くとやっぱりそういうところからだんだん孤立化していっちゃって、認知症になったら嫌だなとかね、知ってる方がそういうふうになっていくのは嫌だなとかって思うので、できたらそのところをどういうふうになんか公民館でもリモートっていうのは難しいけど、年寄りにはそういうのできないんですけど、せっかく公民館使って利用したら、お料理じゃなくてもいいけど、何か手仕事になるようなものとか、認知症に繋がって、やっぱり手仕事してると何とか認知症が遅くなるとか言われてるので、お裁縫なんかないんですかね。編み物でもいいですし、そういうのも入れてもらったらいい

のかなと思います。ごめんなさいとまらなくて。

（新井会長）

ありがとうございます。では高田委員お願いします。

（高田委員）

素晴らしい事業をやっても、ここに来るのが大変っていう方もいるので、さっきの歌の広場見たんですけど、80代の方が多いと。でもお元気そうに見えるんですけど本当は行きたいけど、ちょっともう歩いて行くのも自転車で行くのもちょっと辛いな。車でちょっと送り迎えできるような方がそのメンバーの中にいるとかじゃなかったら、よく社協さんが例えば赤羽根中学の生徒の登下校の車でのサービスをお願いしますとか、どここの施設から帰ってくるのにお願ひしますとかいうのをよくボランティアだよりに毎月発信してるんですね。

そういう意味で、例えば公民館さんもこういう事業やるんだけど、お年寄りにぜひ来てもらいたいけど無理な方は、場合によってはそういうのは送り迎えのサービスができますよっていうふうな方法があればね。でもそれってやっぱり車を運転することだから、万が一のことも考えなくちゃならないし、ちょっとそれも難しいのかな。

でも、よく藤沢市は高齢者の集いなどは、結構車で利用して送り迎えしてくれたりしてるって話を聞いたんですね。それはだから、行政のサービスなのかもしれないんですけど。

何かいい方法ないかな。

（浅井館長）

介護保険の送迎みたいなものでしょうか。

（高田委員）

どうなんでしょう、そういうので介護タクシーとかちょっとタクシーをお願いして車で来ることができるのかなとかね。私、民生委員で定例会あるんだけど、やっぱりここに来るのが遠い方とか、そんな遠くないんだけど歩いてくるのは大変という方はもう一緒に乗せてきちゃうんですね。ここは車を停められるから。コミセンの時も障害者用のブースがある。だから歩くのが難しいって方を一緒に乗せてくれた場合、車停めるのは1台はOKになってるのでね、そういうのは場合によっては利用させていただいてるんですけど、何かそういうようなサークルさんの中で、そういうふうな助け合いをすることができれば、お友達同士なので、難しいことは言わずにちょっと援助して、でもそれはやはりその方たちの自発的なものによるのであって、私たちがどうこう言えるようなものではないけれどね。

（青木委員）

やっぱり車も乗用車とかね、足の悪い人はドアが広く開く方がいい。

乗りやすい方がいいっていろいろ出てきちゃったんですよ。だから難しいと思う、車だと。

（新井会長）

はい、ありがとうございます。

（高田委員）

あとどこも担い手不足はあって、いろんな自治会とかコミセンでまちちからがあると、こういうことやりましたって報告があると、海で地引き網やりました、参加者150組いましたとか、その公園でハロウィンやりました、100人以上の出席ですとか、みんなすごいですよね。楽しいことにはみんなすごい積極的に参加するんですよ。じゃあ自分が中心となって、企画実行する側にまわるかっていうと、それはちょっとっていう方が多くて。でも、その時にちょっとだけその日お手伝いしてください、とか、やるんで、受付だけちょっとお願いできますかとか何とかお願いできますかっていうと、子どもが参加するから自分もちょっとお手伝いしようみたいな方もいるので、何かすごいことを中心となってやってくださいという方法は難しいけれど、ちょっとちょっとのお手伝いを募集することは、さっき公民館まつりの人数

が不足という話、中心に立ってやるのではなく、当日ちょっとこんなこと手伝っていただけませんかというふうにちょっと民生委員も呼びかけてくださいって言われたんですけど、そういうふうな方向でやっぱり人を集めて、ちょっとやってみたら楽しかったから、来年もお手伝いしますよみたいな形で、お手伝いの輪が広がったらなって。うちも納涼祭をやっているんですけど、フランクフルト焼くのを1回組長さんでやったら楽しいから来年もやりみたいですな形でもう3年連続やってくれてる方とかね。

若いお父さんでカキ氷1度やったら楽しいから来年もカキ氷やりみたいですなね、それに限定なんですけどやったださる方とか出てくるのでね。そういうふうな形で、本当にちょっとしたお手伝い募集を広げていけたらなと、公民館の事業にも思いました。畑づくりも皆さん楽しそうにやりましたよね。

（浅井館長）

本当に新たなコミュニティができたかなってというのは思います。

（高田委員）

いつもこっち側からしか見てないので、裏回っていないので。

（浅井館長）

開墾して、畑が倍以上の面積になりました。

（高田委員）

すごいですね。そんなところでございます。

（新井会長）

ありがとうございます。では、谷田貝委員お願いします。

（谷田貝委員）

先日送っていただいた議事録からすると、本当にたったこのページだけにまとまるってすごいなと思いました。担い手不足って担い手を考えたときに私勝手に若い人って思ってしまったんですね、いわゆる30代40代なのかなっていう。

その時に先ほど発表されました子どもキッチンなんかで子どもたちはすごく参加率が高かった。おうちに帰って、おうちで母さんとか大変だなんていう。そこが1つ大事になってくるのかなと。

子どもが公民館に目を向けてきて子どもが変わってくれば保護者も変わってくるだろう。保護者は子どもに興味があるんであれば、少し子どものために、先ほど高田さんがおっしゃったような、保護者を動かすためには、子どもたちの興味、関心そして、結果がこう変わったんだっていうなんか明るい思いがいっぱい繋がってくともっともっと保護者の目が公民館に目を向いていくであろうと。そうするときと先ほどのように少しだったらやってみるとか、このくらいだったらやってみる、大きいことはやりたくないけれども、責任は負いたくないけどみたいなことあるでしょうけども、そういったところに繋がってくるのかなと。同時に、浜竹3丁目はすごい元気だと思うんですけど、私松浪1丁目はですね、いわゆる地域の重鎮者たちと乖離はやっぱり若手はあって、そこと交流をそこどうまくできると、この地域は昔どんな地域だったのかとか、それこそ松浪小学校は木造校舎だったなんていうことは今の若い皆さんがたは知らないの、だからそうやってコミュニケーションをとることも交流の1つだと思うので、辻堂とか松浪とか浜竹とか、茅ヶ崎市はこう変わってきたんだみたいなことも含めて、交流ができればまたこの発信としての地域力を上げるためにもいいのかな、そこから公民館に行ってみようとか、松浪小学校区を盛り上げていこうみたいなことが出てくるのかなと思って。それがSNSなのか、周知力なのか、はたまた子どもたちの変化なのかっていうところは難しいのかもしれないんですけど。

（高田委員）

今年の初めに、中ぐらいですか。小学校のときの先生が福祉ふれあいまつりに何年か前に来て、その時に同級生に出会って、先生ちょっと集まりましようってやったら、1人すごい真面目な大学の先生をやっているような方が昔のクラスの集合写真があったら、その上に名前だ、これが誰々みたいをやっ

ていて、それから自作の地図。自分が中学校だった頃の緑が浜だとかであっちの方の地図でここに誰々の家があってとかね、そんな地図作ったりもしているのを見て、すごい、こういうことやる人もいるんだって。

それからまちちからが出してるお便りに昔の松浪の様子、商店街のやつとか、小学校のこととか出してくださってる方がいるので、何かそんなふうなね、松浪小学校ができたころの思い出を語ろうとかいうふうなものをね、講師誰々とかね、また関心がある方々話し手になってくださる方いませんかとかっていうふうな企画もね、ちょっと面白いんじゃないかなって今聞いて思いました。それを何気ないおしゃべりで、例えば自治会の集まりとか何とかの集まりで言っても新しい人たちには本当に珍しいことだね。例えば浜竹4丁目あたりにパートと家ができて引っ越してきた人がそこが以前松林だったこととかも知らないでしょうし。15軒家が出来たところは、前は1件の家でたぬきもいたとかね、そんなふうなね地元の話が聞けたらね、そんなことをやはり自治会などで出して、若い人と年寄りの交流ができたらいいかないと今ちょっと思いました。

（青木委員）

それこそ公民館は昔から利用者は減っているんですか。

（浅井館長）

減っています。昔はそれこそ4倍とかで、まだ機械で優先とかではなくて紙で部屋の予約の争奪戦みたいな時期もあったかと。その場でくじ引いてみたいな時代もあったと思いますけど。

（青木委員）

小和田が一番ね、活動がすごかったでしょう。

（高田委員）

小学校の役員も、クラス会とか何年何組の保護者会をやりましょうなんて言ってもここの和室とかね。そういうところしかなかったのも、そういうふうな集まりもすごい活発でしたよね。

私だってベルマークの整理をするのに和室使うとかよくね。まだそれこそうん十年前に来た記憶がある。

（青木委員）

それこそ時代錯誤じゃないけれど後退してしまっているところもあるんですね。新しい人が多いから。

（高田委員）

団塊の世代が親だった頃は児童数も多かった、千何百って、あったかくてここしかなかったのも、本当に皆さんね、学習意欲があって、でも、やっぱりその世代ってもう70代ですからね。

やっぱり経済状況が違って若い方々が今共働きしないと家を買えないっていうふうな状態になると、なかなかサークルやってる暇もない。

（青木委員）

今までお世話していたおじいさんおばあさんら地域の人がいなくなっちゃったよね。だから新しく変わっちゃった。

（事務局）

あとは民間の事業者さんのいろんなサービスが広がってるっていうところもあって、先日子どもシネマを行ったんですけど、思っていたよりは来たんですけども、ただやっぱり一昔前は多分そういうエンタメもみんな無料で映画を楽しめるっていうところで、すごい数来ていたところが、今家庭でネットフリックスとかいろんなサブスクを自宅で簡単に見れるみたいなところもあって、そういったところで公民館で集まらなくても楽しめるっていうエンタメが増えてるっていうところも原因の1つなのかななんて話もしていました。

（高田委員）

昨年も地区社協でまだネットフリックスとかでやっていないのに新作を借りてすごいお金払ってやったときにはすごい集まったんですよ。でも、予算がすごかったんで今年はちょっと他のことにも使うのでって、予算を減らすためにちょっと旧作になったらもうてきめん来る人が少なかった。だから子どもたちもよくそういうの見てるのですね。

（新井会長）

ありがとうございます。では高野委員。

（高野委員）

いろいろお話聞いていく中で考えることがあったんですけど、1つは昔の保護者会で放課後でいろいろやってたっていうところで、多分自分が教員になって、もう30年近くなるんですけど、自分がなった頃から多分PTAの役員決めるのってものすごく難しくて、地域によるのかな、昔も役員決めるのって大変でしたか。

（高田委員）

なかなか決まらなかったけど、一応各クラス四、五人の役員は、私が親としてやってる頃だから、20年より以前は、今から20年前より前はどうか集まりました。

（高野委員）

やっぱりとにかく役員が決まらなくて、自分が知る限りの縁が浜だけちょっと特別なんですけど、他は大体難しいんですよね。

やっぱり共働きでフルタイムだからできないっていう方も非常に多い。

昔はおそらく今ほど共働きっていうのは多くなかった。

だからやろうと思えばやる時間があった方で支えられてきたのかなっていう、本当に推測でしかないんですけど。

そういうところとやっぱりこの公民館を含めてこの地域の活用状況の根底にあるものっていうのは、ちょっと似たようなところもあるのかなっていうふうにちょっとお話聞いてて思ったと。

ちょっとね、担い手不足っていうところでこれは、教員って多分大体どこもそうなんだと思うんですけど、茅ヶ崎市市内でも全市内の教職員が国語算数理科社会各教科の研究部っていうのがあって学校の枠を超えて、自分はここに、あそこに行くって言って研究部に所属して、年に何回かいろんな学校から国語なら国語で集まって研究するっていうのがもう昔からあるんですよね。

私も一時期先輩に誘われて社会科部に入ったことがあって、その当時の社会科部ってもう30年ぐらい前なんですけど、大先輩たちが築き上げてきたやり方があるって、すごいんです。民間の学者レベルでも国会図書館に行って調べ物したりとかして、とにかくいろんなことを調べて、その頃東京の下町の歴史とか、テーマでいろんな資料を作って夏休みには東京まで実際に皆さんを連れてって案内してガイドするんです。資料も配ってここはこうですとかですね、それをその社会科部に所属している職員が資料の下調べのお手伝いとか実際に自分でも勉強して、案内するためのレジュメみたいなものを作って、やるっていう伝統があって、その資料の内容が半端じゃないんですよ。自分はもうペーパーで入ってそのお手伝いをしたんだけど、それに参加する方はすごく面白いんですよね。

だからそういう準備は嫌だけどやっぱり参加だけをするっていうんで、社会課部自体の人数はそんなに多くないんですけど、毎年夏休みに他の部からも参加していいですよっていうものがあるんですよね。そういうのにはもう本当に100人200人バースッと集まるんですよ。部員は2、30人ぐらいしかいないんですけど。その2、300人相手にそういう案内をするようなやつをやらなきゃいけない。大変なんです毎年夏休み。だんだんと世代が上がっていくに従って、今度はお前、これからはお前がそれを担っていくんだと言われたときに、1回2回ちょっとやったんですけどもやりきれなくて自分は抜けたんですね社会課部から。なのでこの担い手不足っていうのを考えたときに、例えばもう本当に得意な人が

もう築き上げてきた人気イベントみたいなものを継いでいかなきゃいけないのかっていうところをね、ちょっと担い手不足というところでそういう現状があるかどうか分からないですけど、もう例えば人気のイベントがあったとして、例えば、おそらくそういうのを築き上げてきた人たちは好きでやってた方だと思うですよ。ないところから、作っていくっていうのは。だからそれを継続していく担い手をどうしていくのか、例えばそういった何年か活動していく中で自分もやってみたいって言って、加わって若い人たちが順々に加わっていくのがおそらく理想なんだろうと思うのだけど、そうならなかったときに、或いはもう誰も担い手がいなかったらもうすっぱり諦める勇気も必要なのかなっていう。

その代わり他のところから新しい時代的なものがどんどん生まれてくる可能性もあるのかなっていうのを考えた時に、ちょっと担い手をどうしていくかっていう考え方っていうのはちょっと難しいなと思いました。正直自分も抜けるときには、先輩方からお前はやれっていう圧を受けつつ、もう本当に今までお世話になっておいて申し訳ないんだけどっていう思いで、すごく辛い思いをしつつ抜けていったというか。

～今村委員復活～

(今村委員)

すみませんでした。大丈夫になりました。

(高野委員)

多分似たような感じで運営してる方はね、後継ぎについても多分切望してるところあるんだろうと思うんですけど、やっぱりできる人とできない人はいるんだろうなっていう。そこを柔軟に何かやっていけたらいいのかなというふうに思いました。

(新井会長)

ありがとうございます。

今この答申についてお話をしていたのですが、先に私が話してよいでしょうか。

(今村委員)

はい。

(新井会長)

では、私が先に。

私もこれはすごくまとまっていると思って、まずびっくりしました。

いろいろ上から順々に行くと、あれなんで引がかかるところでいくと、ボランティアサークル活動の再活性化なんていうあたりを見ると、まずこのやっぱり思うのはこの強みは何かって無料である。無料で部屋が使えるって実はすごいありがたいことで、他の施設、コミセンなんかに行っても、団体登録をするときとか団体登録をしてからですけど、お代金はいつとか聞かれたときにここ無料ですよって言うと驚かれるくらい、今どき無料でこんないい施設を貸してくれるところっていうのはないはずなのにあるわけですよ。だからそれを強みに、何かそれをもう少し PR できないかなっていうのが、あります。

お金を払ってどこかで、ただその代わり営利目的はもちろん使えないってのはわかるんですけども、ちょっと集まりたいけど、前はよく家でお茶飲まないか、みたいなのもあったんですけどそれもだんだんと人の家に上がるということもなかなかなくなって、子どもがいない場合は。なのでちょっとそういうときにも使えるようなチャンスはないのかなと思うんですけど、とにかく無料であるっていうのをなんかもっともっとアピールしたいなっていうのがまず思いました。

それと、同時にもうこないだこんなに綺麗になったばかりなのでなかなかあれなんですけれども、やっぱり設備のエレベーターがあったらな、という。そしてコミセンはエレベーターがあるけど駐車場がな

いんですよ。ここはどうなのか。車にも乗ってこられるけど、エレベーターがないっていうのでどっちがいいのかもわからないんですけれども、もしも何か、何か市に言えるのだったらやっぱりこの時代エレベーターなしはきついですねっていうのは、エレベーターがあったらそれこそ来られる方は大勢いらっしゃる。うちの父も実は歩くことはできるけれどやっぱり階段だと、歩けるけれども人に見られたくないみたいなやつが、あってなかなかお年寄りの方に関してはそういう辛いところもあるのかなと思ったのが一つ。それとその送迎ボランティアって面白いなと思ったんですね。

これはどういう仕組みでできるのかはわからないんですけれども、例えば介護保険で、個人的なそういう何かで使うときにタクシーが使えるっていうのが、私は知らなくてちょっとごめんなさい勉強不足なのかわからないんですけれども、送迎ボランティアが駄目ならば例えば何かのイベントの時に介護保険でタクシー呼べますよみたいなのをに入れておくとか、それがもし可能なら、それが使えるものなら。それはごめんなさい調べてないんでわからないんですけれども、とにかく来る手段は実はあるんだよみたいなのを、何かアピールできると。

理想はその送迎ボランティアがいて、やっぱりこのときに募集にこんな方がいらっしゃいます、こんな地域に住んでいらっしゃいます。お迎えに行ってもらえますかって、そんなことができればすごいと思うんですけど。

（高田委員）

介護タクシーって富士見町にあるんですよ。

（新井会長）

それはどういう時に使えるんですか。

（高田委員）

多分、車椅子をご利用の方がどこか行きたいとき。

（新井会長）

プライベートでもいいんですか。例えば病院とかじゃなくて。

（高田委員）

それは個人的に頼むわけだから。そういう方ってちゃんと訓練も受けてるので、ちゃんとした乗せ方とかそういうのもしっかりやったださるんですけど、大抵病院行くとか、どこか目的があって、普通のタクシーは無理だっていう方が多分使うんだと思うんですよ。

でもそれが有料なのかちょっと割引になるのかとか、介護認定を受けてる方だったらちょっと安くなりますとかそれはわからないんですけど、でも例えば要介護4とか本当に病院に行かなくちゃならないときに前もって予約したら保険がきくとかいう話もありました。

だから、例えば富士見町にあるのは、パディ湘南っていう介護タクシーがあるんですけど、そういうところにどういうふうな場合に使えますか、介護保険がききますかとか、そういうことを聞くことはできると思います。一応介護タクシーは茅ヶ崎いっぱいあるんですけど、ここのは消防でちゃんとした訓練を受けて、介護のある意味タクシーに乗せる訓練を受けてる方なので安心して利用することができますよというふうな消防の方からの情報でした。

（新井会長）

そうですね。そういうのも情報提供ができればいいのかもしれません。

（高田委員）

うちのご近所のご主人が入院する前、病院行くのに車椅子で行かないと、もう全然動けないので、介護タクシーを前もって予約して病院をいついつ予約してるあるので、その日に合わせて介護タクシーを介護保険を使って利用することができたって言っていました。

（新井会長）

確かにそれぐらいの感じですよ。運転をされてない、ちょっと歩けないから、歌を歌いに行くからなんというのには借りられないかもしれないですね。

あとは次世代への継承と学校の連携というところでやっぱり谷田貝さんがおっしゃいましたように、幼稚園さんにもちょっとアプローチして、幼小中学校・PTA との連携を強化し、幼稚園にも少しご協力いただくのもいいのかもしれないなと思いました。

あとは今の時代がとても便利であること。まず家で何でもできちゃうけれども、確かに便利だけどここに来たら人と会えるよってというような、何かその同じゲームをするでもここに来れば例えば大きな画面でみんなできちゃうとか、極端ですけども、ここに来たら映画見たあとみんなでおしゃべりもできるよとかそういう何か今の便利さではやっぱり、それこそ AI に人間は勝たなくちゃいけないだし、そういうふうにも何か、その人っていうのをどうやって、人としゃべること、人と会うこと、人と接することっていうのを子どもたちから何かここに来れば人と会える、みたいな何かがあったらいいなとちょっと漠然としてるんですけど思ったりもしました。

あとリモートはやっぱり私もちょっと自信がないのでなかなか手を出せ出しにくいんですが、Zoom は割と公民館は使っているようですけど Zoom の需要っていうのはやっぱり多いですか。

（浅井館長）

対面に向いている事業と両方のニーズに叶えられるのとオンラインが向いてる事業といろいろあるので、一応公民館では事業ごとに、できる限り、両方のニーズに沿えるようにっていうものができればいいなと思っています。

（新井会長）

では別に Zoom じゃなくても参加は大丈夫なのではないでしょうか。Zoom だけっていうのもありますか。

（浅井館長）

5 館連携みたいな事業ですと、どうしても距離があるものについてはオンラインしかやらないっていう事業がありますが、基本はいろんなニーズを組めるように、両方できるものは両方やっています。

なので一応、Zoom 講座も去年やったのかな。なかなか無料でやってくれる講師を探すのが大変で。やってくさる方がいれば、できるかなとは思ってますけど、たまたま今年はスマホ講座が市が全部全体でバックアップしてくれてソフトバンクさんが無料で来てくれるっていうのがあったのでそれに各公民館が乗っかるような形でやりました。

（高田委員）

一度、県民児協の方の広報を担当したことがあったんですね。ちょうど始めた途端にコロナになったんですよ。その会議をどうするかっていうんで、もう Zoom でやるしかないね、と。遠い人は箱根とかあっちの方の人もいたので。その Zoom でやることになったら、すごく分厚い資料を全部送ってきてくれて、こうこうやって Zoom が見れますっていうふうな、県社協の職員さんが。その前からちょっとはコロナになってから Zoom を使っていたので、皆、それ見たらすぐにできたんですけど、でも、何かやるとしたら、ちょっと簡単なやり方も置いておいて、Zoom のやり方はここにあるので、わからない方はどうぞそれを見てやってくださいと親切なことをやらないとなかなか難しいですよ。

（事務局）

Zoom もおそらく開催するホストになる側はちょっと大変ですけど、多分参加する側の方は思ってるよりは簡単で、メールで招待が届いて、その URL をもうポチッと押したらもう入れて参加できるので、多分苦手意識があったりやったことないからっていう方が、多くいらっしゃるんだろうなと思うので、また機会があったら Zoom 講座はやってもいいのかなと思いました。

（新井会長）

はい、ありがとうございました。最後に 1 個だけ。松浪コミュニティーセンターとの共催事業が、こちら

の資料ではちょっと時期検討中になっていたのですが。

（浅井館長）

資料が間に合っていないくてすみません。

（新井会長）

大丈夫です。10月24日の金曜日に松浪コミュニティーセンターで初めて公民館企画で公民館さんが持ってきてくれた成年後見人制度っていう話を、コミセンに普段集まっている人たちに向けてやってみました。あちらこちらでもやられているし他の公民館なんかでもやられているっていうのも聞いていたのですけれども、思ったよりも人が集まりました。

そしてそれはコミセンではなかなか、地域包括センター隣にあるんですけども、コミセンで何かをしようよっていうような話がなかなか出ないのでここで持ってきてくれたのが大当たりだったと思います。私は個人的にはすごくありがたかったと思うので、そういうふうに他館との連携をすることで公民館ってあそこだよ、みたいなそんな話にもなるので。まだ知らない人も同じ松浪地区でもいますので、積極的にいろんなところとコラボができるといいかなと。

（高田委員）

成年後見人も、この近所の人は公民館で何回かやっているから来れるけど、やっぱり話を聞きたいお年寄りもあっちの方だったらここまで来れないんですよ。

（新井会長）

来れないし、市役所に行けばわかるのかな、でもここでやってくれたから、ちょっと近所だから来てみたんだよねみたいな方も多かったので、場所を変えて公民館の出前にして、そして公民館に人を呼ぶみたいなことももう少しできたらいいかななんて思いました。そんなところですよ。

では今村委員、お願いします。

（今村委員）

1枚目の現状の認識なんですけれども、ここに書いてある通り、子育て世代による新規登録が少しずつ増えており、というのはとてもいいことだなと思いました。この下に書いてあるSNSなどの影響もあるのかなっていうのと、若い世代の方たちが新規登録をして何かやっていく上で、もっと需要を聞き取ることが上手く吸い上げられればもっと新規事業につながると思います。その良い例が今回の子どもキッチンに当たるのかなと。これは若い人のお母様方のニーズにマッチしたからこれだけたくさんの応募があったんですよ。当選しなかった人たちもいるくらい人気。多分、お母様方からしたら20何人じゃなくてもっとたくさんの子を受け入れて欲しいというのが本音だと思うんです。

なのでこういう1つの例で、担い手がいないって探したけど、今回浅井館長がリーダーシップをとっていただいて、まとめ役になっていただいたことで、手を皆さんが挙げてできたことが1番よかったのかなと。これからは、難しいんですけど、リーダーになるのは嫌だけどっていう人がいっぱいいるので、今回の小和田キッチンの流れをうまくとって、1回公民館がまとめてそのあと皆さん引き継ぐような事業がもっと増えればいいのかなと思いました。

あと、学校とのコミュニケーション、もちろんそうだと思うのですが、普段からコミュニケーション取れてると思うんですよ。それをより一層ってなると、どういうコミュニケーション、と私は思ってしまうんですけど、そこも課題なのかな。

普段からこうした方がいい、ああした方がいいとお互いコミュニケーションがとれているはずですよ、学校と公民館と地域の私たちも。だけれどそれが何か足りないんじゃないかって思うっていうことは、コミュニケーションの方向が違うのかな、それか或いは、もうちょっと宣伝用のチラシをもうちょっと目につくように貼ってみたりとか、そんなことかなっていうふうに思いました。

あとは、私たちはこうやって公民館に来てるのでもいろんな事を共有できるんですけど、地域の方には

共有できてない部分があって、だから利用者数が少なかったりとか、担い手がいなかったりするもの、それもあるのかな。確かに共働きのご家庭は多いと思うんですけど、でも休みの日はあるわけで、休みの日にサークルを作ったりとか何かは出来ると思うので。休みの日にご家族とちょっと公民館行ってみたいなとか、それが何かはわからないのですが。すみません、まとまっていなくて。以上です。

（新井会長）

はい。すみません。みんな思いはあるんですけども、きちんとまとまってないのを、どうにか汲んでいただき。

（浅井館長）

では、どなたかの発言で修正とか追加とかいう言葉はなくご意見いただいた感じなのですが、修正追加はないのか、というところを最後にまとめていただけたらと思います。

（新井会長）

はい、何かここにどうしてもこの一言付け加えたいみたいなものはありますか、ただうまくまとまってるんですよね。

（高田委員）

これに付け加えることはないんですけど、本当に少数の職員の方々の間で年間これだけのことをして、さらにいろんなサークルの受付もやって、こういう答申を何回もやったださって出してくださってるその大きな働きに本当に頭が下がります。多分コミセンとは全く事業形態が違うと思うのですが、でもある面同じようなことをしてるコミセンの経験者としてはやはり公民館すごいと思います。

（新井会長）

はい。すごく思っています。

（高田委員）

そして、もう一言余計に付け加えると、館長の情熱がほとんどです。職員の皆さんの協力はあるけれど、それが引っ張っていると思います。

（今村委員）

はい。すごいアクティブに動いてくださるから、みんながこうやって一緒になって思っ。多分館長が机に座っているだけだったら誰も動かないっていう。館長が率先して動いて下さるから。

（新井会長）

それと、もちろんそれで私コミセン的な意見でごめんなさい。

やっぱり職員の皆さんがみんな声をかけてくれるっていうところはもう本当に素晴らしいと思うので、ここにはリーダーがあって、団体のリーダーが日常的に意見を重ね、ってありますけれども実は、リーダーじゃない一部員にもちゃんと声をかけてくださるっていうところはすごく、やっぱりそこが入りやすい、知ってる人だからもちろんそうですけど、なので敷居が低い公民館ですよね。

以前ちょっと怖いときもあったんです、実は。ずっと前ですよ、ずっと前にちょっと怖いこともあったんですけど、今そういうことがないのもう館長を中心として今いる人たちのコミュニケーションを益々とっていただけるみんなも居心地いいし、すぐには進まないかもしれないんですけど、やっぱりここは居心地がいいよっていうの植えつけましょう。というわけでこれには何も足すことはもう大丈夫です。

（浅井館長）

では、すみません。今新井会長の方から敷居が低い公民館っていうキーワードをいただきましたので、そこはどこかに盛り込ませてください。それを目指せば、いろんなことにも繋がるんじゃないかっていうキーワードだと思うので、そこはすごくいろんなところに共通すると思ったので、その言葉をいただきます。どこかに入れますのでご承知おきください。

（高田委員）

子どもたちはゲームをやってもね、何も言われなくてもいいけれど。

（今村委員）

今思ったんですけど、ゲーム大会を公民館の講義室で大きく映し出してやったらすごい楽しいのかなと。

（高田委員）

面白いと思う。コミセンはダメだもんね。

（新井会長）

そうなんです。

（今村委員）

家じゃダメだけじゃないですか。でもここで今日はゲーム大会の日でもし OK だったら自分たちのゲーム機で、公民館にはないからね、子どもたちが対戦していくっていうのも楽しいかなって、これはちょっと思っただけですが、はい。

（新井会長）

はい、あとはお任せで大丈夫でしょうか。

（青木委員）

大丈夫。よくまとまっていたと思います。

（浅井館長）

では今の皆さんのご意見にプラスして、今日は年 3 回あるうちの 2 回目で、次がもうこれが正式な答申となってきてそのタイミングで 3 月の終わり、後で日にちをある程度決めますけど、来年度の事業計画は、その時にはもう皆様に案という形でお出しすることになってしまうので、今のところの小和田公民館が考える来年の事業の考え方みたいなところを簡単に、今、皆様のご意見をいただきながら、私から補足の説明をさせていただけたらと思います。

私も 5 年目になって、来年いられるかどうか分からない中、来年事業を組むまではあくまで私の仕事としてあるので、今考えているのは、やはり公民館単独でやる事業ばかりであってはいけないっていうのを感じてまして、いろんなところと、コミセンだったり青推協さんだったり、子どもキッチンクラブではいろんな団体に入ってもらったりとかここを利用されてる多くの団体と繋がることで、非常に大きなムーブメントが今年できたかなっていうふうに感じています。

なので、この火を絶やすことなく、コミュニティスクールにも参加させていただいて、いろんなところでメンバーがかぶったりしてる中で、いろんなことが多分地域で共有されつつあるっていうのはすごく感じるところです。なので、この火を絶やさず、松浪地区ってすごいねってやっぱり言われたいなっていうのもありますし、そういう土壤がある地域だっていうのは改めて今回キッチンクラブキッチンをやって感じたところであるので、そこを生かしながら、公民館の利用者さんを講師に招く講座であったりとかどこかとの連携事業とか社協さんともやっていますし、そういうことで、それぞれが小さく同じことをやるのではなくて、連携して、同じ地域の方は対象者は一緒なので、そういうちょこっとボランティア、さきほど皆様のキーワードから出た、ちょこっとずつ皆様のお力をいただきながら、公民館がハブとなって、まとめ役となってやっていくことによって、いい相乗効果が生まれるんじゃないかと感じてますのでそんな形が生かせるような事業の組み方に、来年度皆様のご意見を反映させながら、していきたいというふうに考えておりますので、また 3 月にその案をお示ししたいと思います。

よろしくお願いいたします。

（新井会長）

まとめのところを館長がおっしゃってくださったので、私はこれで次の議案に移りたいと思います。

議題 3 のその他、事務局よりお願いいたします。

(事務局)

事務局よりその他として3点ご案内ございます。

1点目私から失礼します。本来であれば報告の中で議事を含めるところなんですけれども、直近で水島委員に毎年ある公民館長・公民館運営審議会委員等研修会にご参加いただきまして、その報告書を受け取りましたので皆様に簡単に共有させていただきます。

10月30日に厚木市文化会館で研修会がございました。

内容としては人権ワークショップ、共生社会の実現を目指して、障害者の人権について、というテーマで実施されたものと、講演が主体的な学びを通して自治をつくる公民館持続可能な人づくり地域づくりを目指してというテーマでお話があったそうです。

人権ワークショップでは、共生社会の実現に向けて、共に活動できるような環境の重要性を理解し、身近で具体的な事例について、自分たちの考えや意見をもとに改善策を立案するということをやりました。水島さんのまとめとしては、私たちの周りに様々な障害者がおられる。

身近な事例でどんなバリアに困っているのかっていうのをいくつか事例が挙げられたそうで、例えば車椅子の人がエレベーターのボタンが高くて届かない。一緒の盲導犬がお店に入れない。電車が急停車したけれど、聴覚障害者の方が電車の中の放送がわからない。点状ブロックを歩いていた視覚障害者の方が人にぶつかった。それぞれどんな解決策がありますか、というようなテーマで話し合いをされたそうです。

水島さんがいた班の話し合いでは、班が相模原、厚木、平塚、茅ヶ崎のメンバーだったそうなんですけれども、公民館4館のうち、茅ヶ崎を除く3館はエレベーターが設置済だったということで、先ほど会長からお話がありましたけれども、やっぱり今の時代、高齢の方にとっても、ベビーカーを連れている若い保護者の方にとっても、障害のある方にとってもハード面でのバリアフリーっていうところは求められているっていう話がありました。障害者対応っていうところは公民館は人数が少ないところなので人材人的不足によって完全に対応できているところはなかなかないよねと。外国人対応はどうしても現状は一緒に介助してくれる来場者の方の日本語頼りっていうところが多いけれどもスマホの自動翻訳機能などで対応していくということも、できるようになっているんじゃないかという話が出たそうです。

茅ヶ崎市以外の公民館3館は館長は全員民間の方で、こういった運営審議会でも互選する任期9年というのがそれぞれの市の方針だったそうです。やはり違いがあるねっていう話し合いをされた。そして障害のある人がない人もやっぱり互いにその人らしさを認め合いながらともに生きる社会の実現に向けて、まず簡単に、相手の立場になって相手の気持ちを創造しよう、自分にとっての当たり前は相手にとっても当たり前なのか考えてみようという基本的なことだけれども、大事なことだよっていう確認をしたそうです。

明日地区社協さんと共催事業で発達障がいへの支援と理解についての講座がございます。

今現在、29名の方にお申込みいただいている、茅ヶ崎寒川の自閉症協会の方に講師で来ていただくんですけれども、先ほどのシニア体験じゃないんですけどでも障害者の方の見え方とか聞こえ方を体験したりですとか、本当に見た目では健常者と全く違う方で、ただ家の中が散らかし放題で片付けられないっていうことに困っていたり、学校の先生なんだけれども、文字がうまく頭に入ってくなくて、もう寝る時間がほとんどない中で学校の授業の勉強をされて予習準備をしているような方だったりっていうのを動画とかDVDなんかも、そうやってこんなに身近に見た目でわからない方がたくさん存在しているんだっていうことを気づき、そういう方たちにどういった支援をしたらいいか、やはり見通しが立つような準備をすとか、言葉でもわかりにくい、きっちりとかではなくって、この箱に何々をしまっってね、など具体的な言葉で説明をするだとか、本当に具体的な支援方法も説明していただくよ

うな機会となっているので、もしご興味があつてお時間がある方がいたら、またお声がけいただけたら
なと思います。

講演の方につきましても、先ほどの答申のテーマと少し似ていますけれども、持続可能な人づくり地
域づくりを目指して、公民館が求められているところっていう話し合いを行ったところ、自治市民自治
を作る住民の自治力を高める、その地域自体の力を向上させることが継続していく公民館であつた
りその地域の力っていうことになるので、公民館事業をもとに、市民と職員が学び合ひできる場を整
えることが大事、職員の生き方や専門性を高め合う研修や学びももっと行っていった方がいいだろう
という話があつたそうです。簡単ですが以上です。

その他については、館長から 2 点説明お願いします。

（浅井館長）

はい、それではですね、まず皆様の任期は 2 年です。今 2 年目なので今年度で任期満了となります。
これに伴ひまして、委員を来年度も継続、皆様の組織から出ていただく方をどうするかっていうところ
のご確認は皆様されてらっしゃいますか。そのようなところがそろそろ話題になってくる時期になりました
ので、一応継続するかしないかは問わず、後任の方を年明けに推薦していただくお手紙をまたそれ
ぞれの推薦母体の方に出させていただきますので、継続していただける方は私も 1 期やるわって、そ
のお手紙が届く会長さんにそれとなく事前に言っておいていただけると助かります。

谷田貝委員、次はどちらの幼稚園になるのでしょうか。

（谷田貝委員）

おそらく松浪幼稚園さんにはなるとは思うんですけど、来週に集まりますので、そこでわかると思ひ
ます。

（浅井館長）

わかりました。お手紙は母体のところに送らせていただきますね。

学校さんにおかれましては一応中学校さんと交互なので、来年は松浪中学校の教頭先生になるかと
思ひます。小学校がそのままであれば別に私たちは構わないのですが。

（高野委員）

一応なんか順番で決まっているっていうのは聞いているので。

（浅井館長）

はいわかりました。その他の団体さんにおかれましては会長さんの方にお手紙さ差し上げますので、
よろしく願ひいたします。

（新井会長）

すみません、任期はこの何年や何期までなど頭打ちはあるのでしょうか。

（浅井館長）

今のところ再任は妨げません。10 期 20 期になったらちょっとあれかなと思うんですけど。2 期目は
特に。高田さんは何期目でしたっけ、今。

（高田委員）

2 期目です。そのしばらく前に 1 期やりましたがそのときは世話人会の方から。

（浅井館長）

なるほど、母体が違つたんですね。なるほど。再任は妨げません。

（新井会長）

承知しました。上から言われましたらその時はまた。はい。

（浅井館長）

公民館といったしましても、公民館に興味のない方が来られてしまうと、その方も会議に参加して大変

でしょうし、可能な限り公民館を使ったことがあって公民館を良くしようっていう情熱があらわれる方に出ていただけると非常に助かりますので、自薦他薦問いませんので、よろしくお願いいたします。
続きましてですね、第3回目の会議の日程のご相談ですけれども、第3回では、新井会長から先ほどあった、答申案についての審議に加えて、令和7年度の公民館の事業報告、この後半、今日ご報告した残りのところのご報告と、あと、令和8年度の予算と、令和8年度の事業計画、この3点について審議をさせていただいたく予定です。

一応来年度予算が確定するのは、大体3月の終わりに議会が終わったと同時に、というところであるので、毎年3月の最後の週になるかと思うのですが、今年のカレンダーでいくと3月24日から27日で皆さんのご予定であらかじめダメだとわかっている日があれば、今教えていただけたらと思います。

（新井会長）

すみません。水木を避けていただけると助かるのですが、ごめんなさい先に言って申し訳ないですが、皆さんと調整をお願いします。ですから25と26以外がありがたい。

（浅井館長）

では24か27。

（高田委員）

すみません。24は午前も午後もし役所です。

（浅井館長）

わかりました。では27でいかがでしょう。

（一同）

はい。27は大丈夫です。

（浅井館長）

では、午前、午後はいかがでしょう。午前よりも今日と同じくらいの時間がよいでしょうか。

（青木委員）

その方がいいですね、午後の方があったかいですし。

（浅井館長）

今日くらいの時間がよさそうですね。では、今のところ大きな何かがなければ3月27日13時半からという形で、場所はここで考えております。コンセントがあちこちにあるので、延長コードがいらないという利点がございまして。では、そのような形で今のところ進めさせていただきます。以上です。

（新井会長）

ありがとうございます。

ただいま事務局の説明が終わりました。

（浅井館長）

はい。すみません、宣伝です。先ほど公民館まつりの話がちらほら出ている中で、今回新たな取り組みとしまして、夏休みの小和田子どもキッチンをやってくださっている小和田子どもキッチンクラブの方たちが、子どもたちが300円でやるには到底無理なので、今年はかなりの額の募金がありましたので、300円で維持できましたが来年も同じ額ぐらい来るとは限らないということで、皆さんの団体さんの方から、おまつりでバザー、または模擬店みたいなものを出してその売上金全部を小和田子どもキッチンクラブの活動費として、来年の夏の資金にしたいというお話が団体さんの方から出まして、やることになりましたので、もし皆さんの中でも手伝ってもいいよっていう方がいらっしゃいましたらぜひ。今日谷田貝委員に宣伝したいのは、子ども向けのバザーを特化して土曜日にやりますので、ぜひその子ども服も全部趣旨に賛同する方から無料で譲り受けたものを販売する予定ですので、ぜひ。

チラシができましたら個別に宣伝に行かせていただき、多分ターゲットで買ってくださる方たちは先生に一番近いところかと思しますので、ちょっと宣伝に行かせていただきますのでよろしくお願いいたします。すみません、宣伝は以上です。

（新井会長）

はい。宣伝が終わりました。事務局の説明は終わりましたので、今までの事務局のその他のところで何かご質問がありますか。大丈夫でしょうか、また日程についても大丈夫でしょうか。

はい。ないようでしたら、以上をもちまして本日の会議を終了させていただきます。ちょっと長くなりました。ありがとうございました。お疲れ様でした。

（一同）

お疲れさまでした。